

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人室蘭工業大学

(2) 大学名

室蘭工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(クガ ヨシカズ) 空閑 良壽 (平成27年4月)		
学科長等	(ハナジマ ナオヒコ) 花島 直彦 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
理工学部 創造工学科 学士(工学)	工学関係	4年	365人 (40)	第3年次 25人	1,510人	入学定員欄の()書は夜間主コースの定員で内数

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	365人 (-) [-]	-人	人	人	人	人	人	人	人	人	1.06倍	-	
志願者数	1171 (-) [38]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
受験者数	1097 (-) [38]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
合格者数	473 (-) [31]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
B 入学者数	390 (-) [16]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.06												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	390 [16] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	390 [16] (-)		[] ()		[] ()		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	390 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{390} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学部 創造工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1									兼8
	英語リーディング演習A	1後	1									兼4
	英語リーディング演習B	2前	1									兼4
	英語総合演習	2後	1									兼8
	英語コミュニケーションI	2前・後	1									兼4
	英語コミュニケーションII	3前		1								兼2
	TOEIC英語演習I	1後	1									兼4
	TOEIC英語演習II	3前	2									兼4
	ドイツ語	1前・後		1								兼1
	中国語	1前・後		1								兼1
小計(10科目)	—	8	3								兼10	
地域連携科目	地域社会概論	1前	1			1						兼3
	胆振学入門	1前		1								兼1
	北海道産業論A	3前		1			1					
	北海道産業論B	3前		1			1					兼1
	北海道産業論C	3前		1								兼1
	インター・テクノロジーA	3前		1			1					兼1
	インター・テクノロジーB	4前		1			1					兼1
小計(7科目)	—	1	6		3	1					兼7	
一般教養教育	平和学	1前		1								兼1
	哲学入門	1前		1								兼1
	こころの科学	1前		1								兼1
	経済のしくみ	1前		1								兼1
	日本の憲法	1後		2								兼1
	現代社会論	1後		2								兼1
	現代民主主義論	1後		2								兼1
	現代心理学	1後		2								兼1
	運動の科学	1後		2								兼1
	経済事情	1後		2								兼1
	医の科学	1後		2								兼1
	メンタルヘルス論	1後		2								兼1
	青少年と文化	1後		2						1		兼1
	異文化交流A	1後		2								兼1
	ドイツの文化	1後・2前		1								兼1
	中国の文化	1後・2前		1								兼1
	環境経済論	2前		2								兼1
	基本的人権論	2前		2								兼1
	地方自治論	2前		2								兼1
	感性の科学	2前		2								兼1
	国際文化論	2前		2								兼1
	異文化交流B	2前		2								兼1
	地域再生システム論	1前		2			1					兼2
キャリアデザイン	2後		2								兼1	
スポーツ実習a	1前		1								兼1	
スポーツ実習b	1前		1								兼1	
スポーツ実習c	1後		1								兼1	
スポーツ実習d	1後		1								兼1	
臨海実習	1・2・3・4前		1								兼1	
海外語学研修	1・2・3・4前		2								兼3	
海外研修	1・2・3・4前		1								兼3	
社会体験実習	1・2・3・4前		1			1					兼2	
地域インターンシップ	3前・後		2		4	1					兼3	
短期インターンシップ	3前・後		2		4	1					兼3	
長期インターンシップ	3前・後		3		4	1					兼3	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1									兼8
	英語リーディング演習A	1後	1									兼4
	英語リーディング演習B	2前	1									兼4
	英語総合演習	2後	1									兼8
	英語コミュニケーションI	2前・後	1									兼4
	英語コミュニケーションII	3前		1								兼2
	TOEIC英語演習I	1後	1									兼4
	TOEIC英語演習II	3前	2									兼4
	ドイツ語	1前・後		1								兼1
	中国語	1前・後		1								兼1
小計(10科目)	—	8	3								兼10	
地域連携科目	地域社会概論	1前	1				1					兼3
	胆振学入門	1前		1								兼1
	北海道産業論A	3前		1				1				
	北海道産業論B	3前		1				1				兼1
	北海道産業論C	3前		1								兼1
	インター・テクノロジーA	3前		1			1					兼1
	インター・テクノロジーB	4前		1			1					兼1
小計(7科目)	—	1	6		3	1					兼7	
一般教養教育	平和学	1前		1								兼1
	哲学入門	1前		1								兼1
	こころの科学	1前		1								兼1
	経済のしくみ	1前		1								兼1
	日本の憲法	1後		2								兼1
	現代社会論	1後		2								兼1
	現代民主主義論	1後		2								兼1
	現代心理学	1後		2								兼1
	運動の科学	1後		2								兼1
	経済事情	1後		2								兼1
	医の科学	1後		2								兼1
	メンタルヘルス論	1後		2								兼1
	青少年と文化	1後		2						1		兼1
	異文化交流A	1後		2								兼1
	ドイツの文化	1後・2前		1								兼1
	中国の文化	1後・2前		1								兼1
	環境経済論	2前		2								兼1
	基本的人権論	2前		2								兼1
	地方自治論	2前		2								兼1
	感性の科学	2前		2								兼1
	国際文化論	2前		2								兼1
	異文化交流B	2前		2								兼1
	地域再生システム論	1前		2				1				兼2
キャリアデザイン	2後		2								兼1	
スポーツ実習a	1前		1								兼3	
スポーツ実習b	1前		1								兼1	
スポーツ実習c	1後		1								兼1	
スポーツ実習d	1後		1								兼1	
臨海実習	1・2・3・4前		1								兼4	
海外語学研修	1・2・3・4前		2								兼3	
海外研修	1・2・3・4前		1								兼3	
社会体験実習	1・2・3・4前		1			1					兼2	
地域インターンシップ	3前・後		2		4	1					兼3	
短期インターンシップ	3前・後		2		4	1					兼3	
長期インターンシップ	3前・後		3		4	1					兼3	

コース科目（機械ロボット工学コース）	力学系科目群	熱力学	2後	2			1														
		伝熱工学	3後		2						1										
		流体力学Ⅰ	2後	2							1										
		流体力学Ⅱ	3前	2			1														
		材料力学Ⅰ	2後	2			1														
		材料力学Ⅱ	3前	2			1														
		機械力学Ⅰ	2後	2							1										
		機械力学Ⅱ	3前	2							1										
	小計（8科目）	—	14	2			3			1	2										
	システム系科目群	制御工学	2後	2				1													
		システム制御工学	3前	2				1													
		電気電子工学	2後	2					1												
		計測システム工学	2後		2			1	1												
ロボット工学		3前	2				1														
知能ロボット応用学		3後		2			1														
小計（6科目）	—	8	4			3	2														
エンジニアリングデザイン・実験科目群	機構学	2後	2			1															
	機構システム設計学	3前		2			1														
	機構製作学	3後		2						1											
	機械材料学	3後		2							1										
	機械製図	2後	2				1			1											
	機械工作法実習	3前	2				1		1												
	機械ロボット工学実験	3前	2				8	3	2	4											
	機械ロボット工学演習	3後	2				2	1	2	4											
	機械ロボット工学設計法	4前	2				1	3	2	4											
	技術英語	3前	2							1											
	技術コミュニケーション	3後	2							1											
	卒業研究Ⅰ	4前	4				8	4	2	5											
	卒業研究Ⅱ	4後	6				8	4	2	5											
小計（13科目）	—	24	8			8	4	2	5												
コース科目（航空宇宙工学コース）	応用数学科目群	応用解析学Ⅰ	2後	2				1		1											
		応用解析学Ⅱ	3前	2				1		1											
		小計（2科目）	—	4				1	1	1											
	空力科目群	飛行力学Ⅰ	2後	2				1		1											
		飛行力学Ⅱ	3前		2			1		1											
		数値流体力学	3後		2			1													
		空気力学	3前	2				1													
		航空機設計法Ⅰ	3後	2				1													
		小計（5科目）	—	6	4				2		1										
	機体構造・材料科目群	航空宇宙構造工学Ⅰ	2後	2				1	1												
		航空宇宙構造工学Ⅱ	3前	2				1													
		航空宇宙構造工学Ⅲ	3後		2				1												
		航空宇宙機械力学	2後	2						1											
小計（4科目）	—	6	2				1	1	1												
誘導・制御科目群	航空宇宙制御工学Ⅰ	2後	2							1											
	宇宙航行工学	3前		2			1														
	航空宇宙制御工学Ⅱ	3後		2			1														
	小計（3科目）	—	2	4			1			1											
推進工学科目群	航空宇宙熱力学	2後	2							1											
	ロケット工学	3前		2			2			1											
	ジェットエンジン	3後		2																	
	燃焼工学	2後	2						1												
	伝熱学	3前		2				1		1											
	小計（5科目）	—	2	8			2	1	1	1											
電気電子科目群	航空宇宙電気電子工学	2後	2				1														
	小計（1科目）	—	2				1														
工学系実践力・システム設計能力科目群	機械製図	2後	1					1													
	航空宇宙工学製図	3後	2				1			2											
	航空宇宙工学特別講義	4通	1				3														
	宇宙機設計法	4前		2			4	3		3											
	航空機設計法Ⅱ	4前		2				1													
	航空宇宙工学実験	3前	2				2	1		2											
	航空宇宙工学セミナー	3後	2				4	4		3											
	卒業研究Ⅰ	4前	4				4	4		3											
	卒業研究Ⅱ	4後	6				4	4		3											
	小計（9科目）	—	18	4			4	4		3											

コース科目（機械ロボット工学コース）	力学系科目群	熱力学	2後	2				1													
		伝熱工学	3後		2						1										
		流体力学Ⅰ	2後	2							1										
		流体力学Ⅱ	3前	2				1													
		材料力学Ⅰ	2後	2				1													
		材料力学Ⅱ	3前	2				1													
		機械力学Ⅰ	2後	2							1										
		機械力学Ⅱ	3前	2							1										
	小計（8科目）	—	14	2			3			1	2										
	システム系科目群	制御工学	2後	2				1													
		システム制御工学	3前	2				1													
		電気電子工学	2後	2					1												
		計測システム工学	2後		2			1	1												
ロボット工学		3前	2				1														
知能ロボット応用学		3後		2			1														
小計（6科目）	—	8	4			3	2														
エンジニアリングデザイン・実験科目群	機構学	2後	2			1															
	機構システム設計学	3前		2			1														
	機構製作学	3後		2						1											
	機械材料学	3後		2							1										
	機械製図	2後	2				1		1												
	機械工作法実習	3前	2				1		1												
	機械ロボット工学実験	3前	2				8	3	2	4											
	機械ロボット工学演習	3後	2				2	1	2	4											
	機械ロボット工学設計法	4前	2				1	3	2	4											
	技術英語	3前	2							1											
	技術コミュニケーション	3後	2							1											
	卒業研究Ⅰ	4前	4				8	4	2	5											
	卒業研究Ⅱ	4後	6				8	4	2	5											
小計（13科目）	—	24	8			8	4	2	5												
コース科目（航空宇宙工学コース）	応用数学科目群	応用解析学Ⅰ	2後	2					1	1											
		応用解析学Ⅱ	3前	2				1		1											
		小計（2科目）	—	4				1	1	1											
	空力科目群	飛行力学Ⅰ	2後	2				1		1											

卒業要件 (創造工学科 電気電子工学コース)

1. 本表の授業科目のうち、必修科目42単位、選択科目14単位以上、合計56単位以上修得すること。
2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目から26単位、創造工学科共通科目から23単位を含め、合計129単位以上修得すること。

卒業要件 (創造工学科 電気電子工学コース)

1. 本表の授業科目のうち、必修科目42単位、選択科目14単位以上、合計56単位以上修得すること。
2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目から26単位、創造工学科共通科目から23単位を含め、合計129単位以上修得すること。

<理工学部 創造工学科 (夜間主コース)>

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1								兼1	
	英語コミュニケーション演習	1前	1								兼1	
	TOEIC英語演習A	1後	1								兼1	
	英語リーディング演習	1後	1								兼1	
	TOEIC英語演習B	2前	1								兼1	
	英語総合演習	2前	1								兼1	
	ドイツ語	1前		1							兼1	
	中国語	1前		1							兼1	
小計 (8 科目)	—	6	2								兼3	
一般教養教育	スポーツ実習 b	1前		1							兼1	
	スポーツ実習 d	1後		1							兼1	
	臨海実習	1-2-3-4前		1							兼1	
	社会体験実習	1-2-3-4前		1		1					兼2	
	海外研修	1-2-3-4前・後		1							兼3	
	海外語学研修	1-2-3-4前・後		2							兼3	
	表現技法	1前		1							兼1	
	キャリアデザイン	2後		2							兼1	
	地域再生システム論	1前		2			1				兼2	
	短期インターンシップ	3前・後		2			2					
	長期インターンシップ	3前・後		3			2					
	哲学入門	1-2前		1							兼1	
	現代社会論	1-2後		2							兼1	
	こころの科学	1-2前		1							兼1	
	現代心理学	1-2後		2							兼1	
	経済のしくみ	1-2前		1							兼1	
	経済事情	1-2後		2							兼1	
	平和学	1-2前		1							兼1	
	日本の憲法	1-2後		2							兼1	
	現代民主主義論	1-2後		2							兼1	
小計 (20 科目)	—		31		3	1					兼14	
理工学部共通科目	線形代数A	1前	2								兼1	
	線形代数B	1後	2								兼1	
	微分積分A	1前	2								兼1	
	微分積分B	1後	2								兼1	
	微分積分C	2前	2								兼1	
	物理学A	1前	2			2		1			兼9	
	物理学B	1後	1			2		1			兼5	
	物理学C	1後	1			2		1			兼5	
	化学	1後		2							兼4	
	生物学	1後		2							兼4	
	フレッシュマンセミナー	1前	1			2						
	小計 (11 科目)	—	15	4		2	3		1			兼23
	理工学部共通科目	情報セキュリティ入門	1前	2								兼4
データサイエンス入門		1後	2			2	1				兼6	
プログラミング入門		1後	2								兼4	
小計 (3 科目)		—	6			2	1				兼10	
夜間主コース共通科目	工業物理基礎実験	2前	1								兼3	
	化学・生物学概論	1前	2								兼1	
	電気回路基礎	2前	2			1						
	電磁気学基礎	2前	2			1						
	材料の力学A	2前	1			1						
	材料の力学B	2前	1			1						
	流れの力学A	2前	1			1						
	流れの力学B	2前	1			1						
	熱力学基礎A	2前	1			1						
	熱力学基礎B	2前	1			1		1				
	計測工学	2前	1			1	1					
	工学技術者倫理	3後	2			2						
小計 (12 科目)	—	16			7	3					兼4	
情報科目	統計的データ処理	2後	2			2						
	現代情報学概論	1後	2								兼1	
	確率統計	2前	2			1						
	情報システム工学	1後	2								兼1	
プログラミング実践演習	2前	2								兼1		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1								兼2	
	英語コミュニケーション演習	1前	1								兼2	
	TOEIC英語演習A	1後	1								兼1	
	英語リーディング演習	1後	1								兼1	
	TOEIC英語演習B	2前	1								兼1	
	英語総合演習	2前	1								兼1	
	ドイツ語	1前		1							兼1	
	中国語	1前		1							兼1	
小計 (8 科目)	—	6	2								兼4	
一般教養教育	スポーツ実習 b	1前		1							兼1	
	スポーツ実習 d	1後		1							兼1	
	臨海実習	1-2-3-4前		1							兼4	
	社会体験実習	1-2-3-4前		1		1					兼2	
	海外研修	1-2-3-4前・後		1							兼3	
	海外語学研修	1-2-3-4前・後		2							兼3	
	表現技法	1前		1							兼1	
	キャリアデザイン	2後		2							兼1	
	地域再生システム論	1前		2				1			兼2	
	短期インターンシップ	3前・後		2			2					
	長期インターンシップ	3前・後		3			2					
	哲学入門	1-2前		1							兼1	
	現代社会論	1-2後		2							兼1	
	こころの科学	1-2前		1							兼1	
	現代心理学	1-2後		2							兼1	
	経済のしくみ (未開講)	1-2前		1							兼1	
	経済事情	1-2後		2							兼1	
	平和学 (未開講)	1-2前		1							兼1	
	日本の憲法	1-2後		2							兼1	
	現代民主主義論	1-2後		2							兼1	
小計 (20 科目)	—		31		3	1					兼17	
理工学部共通科目	線形代数A	1前	2								兼1	
	線形代数B	1後	2								兼1	
	微分積分A	1前	2								兼1	
	微分積分B	1後	2								兼1	
	微分積分C	2前	2								兼1	
	物理学A	1前	2			2		0	0		兼1	
	物理学B	1後	1			2		2	1		兼5	
	物理学C	1後	1			2		2	1		兼5	
	化学	1後		2							兼4	
	生物学	1後		2							兼4	
	フレッシュマンセミナー	1前	1			2						
	小計 (11 科目)	—	15	4		2	2		1			兼19
	理工学部共通科目	情報セキュリティ入門	1前	2								兼4
データサイエンス入門		1後	2			2	1				兼6	
プログラミング入門		1後	2								兼4	
小計 (3 科目)		—	6			2	1				兼10	
夜間主コース共通科目	工業物理基礎実験	2前	1								兼3	
	化学・生物学概論	1前	2								兼1	
	電気回路基礎	2前	2			1						
	電磁気学基礎	2前	2			1						
	材料の力学A	2前	1			1						
	材料の力学B	2前	1			1						
	流れの力学A	2前	1			1						
	流れの力学B	2前	1			1						
	熱力学基礎A	2前	1			1						
	熱力学基礎B	2前	1			1		1				
	計測工学	2前	1			1	1					
	工学技術者倫理	3後	2			2						
小計 (12 科目)	—	16			7	3					兼4	
情報科目	統計的データ処理	2後	2			2						
	現代情報学概論	1後	2								兼1	
	確率統計	2前	2			1						
	情報システム工学	1後	2								兼1	
プログラミング実践演習	2前	2								兼1		

<p>卒業要件（一般教養教育）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語科目7単位以上、人と社会に関する科目14単位以上、合計21単位以上修得すること。 2. 昼間コース一般教養教育科目（本表と同一の外国語科目を除く）の単位を修得した場合は、夜間主コース一般教養教育科目の選択科目に含めることができる。
<p>卒業要件（理工学部共通科目、創造工学科共通科目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理工学部共通科目から23単位、創造工学科共通科目から26単位、合計49単位以上修得すること。
<p>卒業要件（創造工学科 夜間主コース 機械系コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本表の授業科目のうち、必修科目30単位、選択科目25単位以上、合計55単位以上修得すること。 2. 一般教養教育21単位、理工学部共通科目23単位、夜間主コース共通科目26単位を含め、合計125単位以上修得すること。 3. 昼間コース（機械ロボット工学コース、航空宇宙工学コース、電気電子工学コース）のコース科目、夜間主コース電気系コースのコース科目を修得した場合は、本表の選択科目の単位数に含めることができる。
<p>卒業要件（創造工学科 夜間主コース 電気系コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本表の授業科目のうち、必修科目42単位、選択科目13単位以上、合計55単位以上修得すること。 2. 一般教養教育21単位、理工学部共通科目23単位、夜間主コース共通科目26単位を含め、合計125単位以上修得すること。 3. 昼間コース（機械ロボット工学コース、電気電子工学コース）のコース科目、夜間主コース機械系コースのコース科目を修得した場合は、9単位以内に限り選択科目B群の単位数に含めることができる。

<p>卒業要件（一般教養教育）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語科目7単位以上、人と社会に関する科目14単位以上、合計21単位以上修得すること。 2. 昼間コース一般教養教育科目（本表と同一の外国語科目を除く）の単位を修得した場合は、夜間主コース一般教養教育科目の選択科目に含めることができる。
<p>卒業要件（理工学部共通科目、創造工学科共通科目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理工学部共通科目から23単位、創造工学科共通科目から26単位、合計49単位以上修得すること。
<p>卒業要件（創造工学科 夜間主コース 機械系コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本表の授業科目のうち、必修科目30単位、選択科目25単位以上、合計55単位以上修得すること。 2. 一般教養教育21単位、理工学部共通科目23単位、夜間主コース共通科目26単位を含め、合計125単位以上修得すること。 3. 昼間コース（機械ロボット工学コース、航空宇宙工学コース、電気電子工学コース）のコース科目、夜間主コース電気系コースのコース科目を修得した場合は、本表の選択科目の単位数に含めることができる。
<p>卒業要件（創造工学科 夜間主コース 電気系コース）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本表の授業科目のうち、必修科目42単位、選択科目13単位以上、合計55単位以上修得すること。 2. 一般教養教育21単位、理工学部共通科目23単位、夜間主コース共通科目26単位を含め、合計125単位以上修得すること。 3. 昼間コース（機械ロボット工学コース、電気電子工学コース）のコース科目、夜間主コース機械系コースのコース科目を修得した場合は、9単位以内に限り選択科目の単位数に含めることができる。

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ **本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。**
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても**科目名の後ろに「（未開講）」**として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

<理工学部 創造工学科>

【令和元年度】

- ・教育内容の充実の理由により、「スポーツ実習 a」の兼任・兼任の配置を「1」から「3」に変更。
- ・教育内容の充実の理由により、「臨海実習」の兼任・兼任の配置を「1」から「4」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「物理学A」の専任教員等の配置を「准教授2、助教1」から「准教授1、助教0」及び兼任・兼任の配置を「9」から「3」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「フレッシュマンセミナー」の兼任・兼任の配置を「3」から「0」に変更。

<理工学部 創造工学科（夜間主コース）>

【令和元年度】

- ・教育内容の充実の理由により、「フレッシュマン英語演習」の兼任・兼任の配置を「1」から「2」に変更。
- ・教育内容の充実の理由により、「英語コミュニケーション演習」の兼任・兼任の配置を「1」から「2」に変更。
- ・教育内容の充実の理由により、「臨海実習」の兼任・兼任の配置を「1」から「4」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「物理学A」の専任教員等の配置を「准教授2、助教1」から「准教授0、助教0」及び兼任・兼任の配置を「9」から「1」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

<理工学部 創造工学科>

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	19 科目	0 科目	27 科目	8 科目 [0]	19 科目 [0]	0 科目 [0]	27 科目 [0]	

<理工学部 創造工学科（夜間主コース）>

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
8 科目	13 科目	0 科目	21 科目	8 科目 [0]	13 科目 [0]	0 科目 [0]	21 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	経済のしくみ	1	1・2前	一般	選択	隔年開講のため
2	平和学	1	1・2前	一般	選択	隔年開講のため
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目は、全て隔年開講科目であり、次年度以降の開講により履修が可能である。
 なお、学生に対しては、入学時に配布する学生便覧にて「西暦奇数年度開講科目」及び「西暦偶数年度開講科目」を示し、当該年度の開講科目等について周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{48} = \boxed{4.16}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	121,138㎡	0㎡	0㎡	121,138㎡			
	運動場用地	25,279㎡	0㎡	0㎡	25,279㎡			
	小 計	146,417㎡	0㎡	0㎡	146,417㎡			
	そ の 他	67,851㎡	0㎡	0㎡	67,851㎡			
	合 計	214,268㎡	0㎡	0㎡	214,268㎡			
(2) 校 舎	専 用	70,022㎡	0㎡	0㎡	70,022㎡	教育・研究3号館渡り廊 下69.86㎡整備予定 (元)		
	(70,092㎡) (70,022㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(70,092㎡) (70,022㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	教育・研究3号館の改修 に伴う転用等及び教員の 入替等による用途変更 (元)		
	34室 45室	25室 12室	55室 59室	6室 (補助職員 5人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			専任教員2名辞任のため (元)		
	理工学部 創造工学科		133 135 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体 図書・設備等更新のため (元)
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	理工学部	325,346 [87,565] 331,915 [85,441] (312,833 [84,198]) (323,527 [85,441])	6,086 [2,184] 6,072 [2,182] (6,086 [2,184]) (6,072 [2,182])	4,005 [4,001] 4,535 [3,971] (4,005 [4,001]) (4,535 [3,971])	4,112 4,462 (3,954) (4,032)	290 276 (0) (276)	1 (1)	
計	325,346 [87,565] 331,915 [85,441] (312,833 [84,198]) (323,527 [85,441])	6,086 [2,184] 6,072 [2,182] (6,086 [2,184]) (6,072 [2,182])	4,005 [4,001] 4,535 [3,971] (4,005 [4,001]) (4,535 [3,971])	4,112 4,462 (3,954) (4,032)	290 276 (0) (276)	1 (1)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	4,141㎡		374		323,472			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	2,856㎡		テニスコート、弓道場、アーチェリー場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	千円
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	千円
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	室 蘭 工 業 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人 3年次 40	人		倍	年度	年度	年度	
工学部	4	-	3年次 40	1880	-	1.06	-	昭和24	-	
建築社会基盤系学科	4	-	3年次 10	350	学士 (工学)	1.09	-	平成21	北海道室蘭市水元町27番1号	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△110
機械航空創造系学科	4	-	3年次 10	500	学士 (工学)	1.06	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△160
応用理化学系学科	4	-	3年次 10	410	学士 (工学)	1.05	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△130
情報電子工学系学科	4	-	3年次 10	620	学士 (工学)	1.04	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△200
理工学部	4	600	-	600	-	1.05	平成31	平成31	-	
創造工学科	4	365	-	365	学士 (工学)	1.06	平成31	平成31	北海道室蘭市水元町27番1号	
システム理化学科	4	235	-	235	学士 (工学)	1.05	平成31	平成31	同上	
工学研究科(博士前期課程)	2	224	-	448	-	1.14	-	昭和40	-	
環境創生工学系専攻	2	73	-	146	修士 (工学)	1.29	-	平成26	北海道室蘭市水元町27番1号	
生産システム工学系専攻	2	84	-	168	修士 (工学)	1.11	-	平成26	同上	
情報電子工学系専攻	2	67	-	134	修士 (工学)	1.03	-	平成26	同上	
工学研究科(博士後期課程)	3	15	-	45	-	1.37	-	平成2	-	
工学専攻	3	15	-	45	博士 (工学)	1.37	-	平成26	北海道室蘭市水元町27番1号	
大学全体	-	839	40	2973	-	1.15	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none">・ 廣田 光智専任准教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。・ 栗橋 祐介専任講師退職のため、削除。・ 岸本(猿山) 嘉彦専任助教退職のため、削除。・ 田湯 善章専任助教の担当授業科目から「物理学A」を削除。・ 岸本 弘立兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 桃野 直樹兼担教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。・ 吉田 雅典兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 前田 潤兼担教授の担当授業科目に「地域社会概論」を追加。・ 澤口 直哉兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 柴山 義行兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 矢野 隆治兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 葛谷 俊博兼担教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。・ 安居 光國兼担教授の担当科目見直しのため、削除。・ 本田 泰兼担教授の担当授業科目から「フレッシュマンセミナー」を削除。・ 田所 重紀兼担教授昇任のため、兼担教授に変更。・ 山路奈保子兼担教授昇任のため、兼担教授に変更。・ 阿知良洋平兼担講師の担当授業科目から「地域社会概論」を削除。・ 大口 喜久男兼任講師を配置し、授業科目「スポーツ実習a」を担当。・ 成田 正則兼任講師を配置し、授業科目「スポーツ実習a」を担当。・ 本村 泰三兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。・ 長里 千香子兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。・ 市原 健介兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。・ Polard, Shane David兼任講師を配置し、授業科目「フレッシュマン英語演習」「英語コミュニケーション演習」を担当。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
35 名	18 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
23	26	3	17	69	23	26	2	16	67
(23)	(26)	(3)	(16)	(68)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
23	26	2	16	67	23	26	2	16	67
[0]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[Δ2]	[0]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[Δ2]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{67}{69} = \boxed{97.1} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{67} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	岸本 嘉彦	H31.03	必修	建築学概論	③	H31.03.31付け他大学へ異動のため辞任(31)			
				必修	卒業研究	③				
				必修	建築環境工学Ⅰ	③				
				必修	建築環境工学Ⅱ	③				
				必修	建築設備	③				
				必修	建築学演習Ⅰ	③				
				必修	建築学演習Ⅲ	③				
			選択	寒地建築環境工学	③					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	7	科目	必修	0	科目	必修	7	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	0	科目	計	8	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	栗橋 祐介	H31.04	必修	建設構造力学	③	H31.04.30付け他大学へ異動のため辞任(31)			
				必修	卒業研究	③				
				必修	土木構造力学Ⅰ	③				
				必修	土木構造力学Ⅱ	③				
				必修	土木工学創造演習	③				
				必修	土木実験	③				
				選択	応用構造力学	③				
			選択	維持管理工学	③					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	6	科目
		選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	0	科目	計	8	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
2	人	必修	13	科目	必修	0	科目	必修	13	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	0	科目	計	16	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{69} = 2.89 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>平成31年3月に就任辞退及び平成31年4月に辞任した専任教員が担当する授業科目については、令和2年以降の開講科目(2年次後期以降)であるため、後任補充として他の専任教員への担当科目の追加や新規採用について早期に検討し、開講に影響のないよう準備する。また、学生には、開講年度のシラバス等において担当教員名を周知予定。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	遵守事項	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>養成する人材像とディプロマ・ポリシーの「強靱性」について、強くてしなやかという通常の意味とは異なる意味で用いている。学生や社会一般に誤解を与えないよう、本学の考える「強靱性」の内容について、学生募集時や広報活動の際に十分周知すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>「強靱性」とは、技術革新や社会環境の変化が速い産業界において、自らの能力を発揮できる強さ・しなやかさを持つことを示しており、変化が速い産業界において能力を発揮するためには、ひとつの専門にとらわれずに幅広い基礎知識と情報技術、複数の専門知識を修得することで、多様な困難に対して広い視野で対応できるようになり、このような人材を「強さ・しなやかさ」を持った人材として捉えている。</p> <p>このことを学生募集、広報活動の際に、学生に誤解のないよう十分説明を行うとともに、理工学部紹介用資料を作成し、設置の趣旨や必要性、理工学部の教育の特徴などと併せて、本学が養成する人材像等について、より理解が深まるよう一部表現を以下のとおり改め、配付した。</p> <p>養成する人材像 (強靱性と俯瞰力) 旧) 自身の幅広い基礎知識と基本の情報技術を身に付け、多様な困難を俯瞰的に捉えて対応できる科学技術者 新) 幅広い基礎知識と基本の情報技術を身に付けて実社会に活かす能力を修得し、多様な困難に、広い視野で柔軟に対応できる科学技術者</p> <p>また、学生や社会一般に向けて、本学HPにおいても上記と同様に養成する人材像、ディプロマ・ポリシーを掲載し、周知している。</p>	<p>履行済</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>シラバスにアクティブラーニングについて記述する欄を設けているが、例えば予習・復習など、アクティブラーニングではない内容が記述されている。シラバスにおける記述として適切ではないため、アクティブラーニングを行わない科目における記述を削除すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>シラバスに記述するアクティブラーニングに関する項目を見直し、予習復習に係る内容は記述しないこととした。また、当該変更については、「シラバス記入上の注意・シラバス記入例」に反映し、教員に周知した。さらに、シラバス公開前にシラバス担当ワーキンググループによるシラバス点検を2回行い、「シラバス記入上の注意・シラバス記入例」に沿った記述になっていることを確認後、シラバスを公開した。</p> <p>参考資料：シラバス抜粋参照</p>	<p>履行済</p>

<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>「情報セキュリティ入門」については、情報セキュリティの基礎となる考え方を理解するとともに、インターネットやパソコンの安全な利用方法を習得させるとしているが、「安全な利用方法」の習得は利用者側の観点に立った内容（情報リテラシー）となっている。「情報セキュリティ」という名称の科目であれば、OS、ソフトウェア及びネットワークなどのセキュアな構成技術やマルウェア対策などの内容を加えることが望ましい。</p>	<p>助言事項</p>	<p>当該科目で取り扱う内容を見直し、以下の内容について授業を行っている。 1_スマートフォンとその脅威、権利関係法規、個人情報、マルウェア対策 2_ 電子的なコミュニケーションの基礎、電子メールのセキュリティ 3_ インターネットサービスとその脅威、クラウドセキュリティ 4_ 情報管理方法、リスクアセスメントとリスク対応 5_ 情報セキュリティと情報機器の管理技術 6_ セキュリティ技術その1：Wifi、暗号化、IPプロトコルの仕組みと暗号化、Wifi調査 7_ セキュリティ技術その2：セキュアなシステム構築（OS、ソフトウェア、ネットワーク）、電子署名、認証基盤</p>	<p>履行済</p>	
<p>認可時 (令和元年)</p>					

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

開講学期 / Course Start	2019年度 / Academic Year 前期 / First
開講曜限 / Class period	水 / Wed 3, 水 / Wed 4
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業
対象学科 / Department	創造工学科
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年
授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修
授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
授業科目名 / Course Title	線形代数A (Dクラス)
単位数 / Number of Credits	2.0
担当教員名 / Lecturer	森田英章
時間割コード / Registration Code	J2004
連絡先 / Contact	森田英章(部屋番号 Q410 電話番号 5810 morita@mmm.muroran-it.ac.jp.)
オフィスアワー / Office hours	森田英章(水曜日 15:30 ~ 16:30)

更新日 / Date of renewal	2019/02/24
授業のねらい / Learning Objectives	工学を学ぶ際の基本言語の一つである線形代数、特にその計算に関する側面を修得することを主な目的とする。それ以外に三つある。 下に教科書を指定したが、授業の進め方はそれとほぼ独立した形でおこなう。従って、毎回の演習では各自のノートが頼りとなる。自分でとった情報を自分で活用することに慣れてほしい。二つ目は、ノートを素早くとる習慣を身につけることである。大学の講義での板書はおおむね早い。そのなかで、使えるノートを的確に作製するための自らのワザを形成してもらいたい。最後は、文献を自力で読み進める事に慣れる事である。各自、教科書の授業内容に該当する部分は常に読んでおいてもらいたい。授業を通じてだいが教科書がよみやすくなっているはずである。講義では取り上げる事ができなかった事柄や、演習問題のヒント（解答）が載っていることもある。この授業が終わる頃には、教科書の該当箇所を読み終えていてもらいたい。
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ul style="list-style-type: none"> ・行列の各種演算ができる。 ・行列の基本変形を確実に行うことができる。 ・行列の基本変形の応用として連立1次方程式の解を求めることができる。 ・掃き出し法や余因子法を用いて逆行列を求めることができる。 ・掃き出し法や余因子展開を用いて行列式の計算をすることができる。 ・空間ベクトルに関する計算ができる。
授業計画 / Course Schedule	<p>総授業時間数（実時間） 22.5時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、行列用語の基礎知識、および和とスカラー倍 2、空間のベクトルとその基本操作 3、行列の積 4、逆行列～掃き出し法 5、連立一次方程式Ⅰ～唯一解 6、連立一次方程式Ⅱ～解の自由度 7、連立一次方程式Ⅱ～行列の階数と解の自由度 8、中間試験 9、行列式の定義 10、行列式の計算～余因子展開Ⅰ 11、行列式の計算～余因子展開Ⅱ 12、逆行列再説～余因子法 13、まとめ <p>各回には各自の理解を深めるための演習がつく。 提出期限は出題回の次回の講義終了時を標準とする。 この作業を通じて自己学習の時間を確保していただきたい。</p> <p>実際の内容に入る前に、一回ガイダンスを行う。 そこで、講義・演習、試験およびその採点、 単位取得に関する注意点、以上3点についての概要を述べる。 また途中、中間試験、およびその返却・解説が共に一回入る予定である。</p>
教科書 / Required Text	線形代数（学術図書出版社）(ISBN:9784780604672)
教科書・参考書に関する備考	<p>教科書] 線形代数（学術図書出版社） 著者：桂田英典他</p> <p>[参考書] 齋藤正彦著「線形代数入門」東京大学出版会 基礎数学1、定価1,995円（税込）図書館に10冊所蔵あり</p> <p>[備考]</p>
成績評価方法 / Grading Guidelines	<p>成績評価には中間試験・定期試験・演習を用いる。 中間試験20%、定期試験50%、演習点30%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>各到達度目標は、これら中間試験・定期試験・演習を通じて評価される。 ただし、受講者数によっては中間試験を行わない場合がある。 その場合は定期試験60%、演習40%で評価する。 再試験等は一切行わない。受講者は、自己のスケジュール管理と体調管理に万全を期すこと。</p> <p>合格のための必要条件は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1： 中間と定期の両方の試験を受験すること。 2： 演習を10回ほど行うが、そのうち8回以上提出すること。 3： 履修者名簿に指名が掲載されていること。 <p>以上の3点である。</p>

	<p>特に必要条件 3 については、 受講者自身の責任で確実に登録を行い、事務的な不備を自ら排すること。 この点に関して教員からの救済は一切期待できない。</p> <p>また、不合格者は再履修すること。</p>
<p>履修上の注意 ／Notices</p>	<p>この講義ではほぼ毎回演習がつく。話を聞いて理解することと、自分で実際にそれを実行することの間には壁がある。この壁を乗り越えることが、演習の主な目的である。それ以外に、講義では拾いきれない細かい話題や、後に出てくる話題の動機付けも演習の中で扱われる。</p> <p>以下、演習についての注意点を挙げておく：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題は、大別して I, II, III の三種類の問題群が用意されている。それを各自解答を作成して提出する。I, II, III それぞれいくつかの小問で構成されている。 ・I の問題群は、講義中に取り扱われた例題に準じた問題である。ノートを見ながらやれば、確実に解答できる。 ・II の問題群は、I の問題群に計算的側面で若干の負荷をかけたもの、および話の流れの都合、あるいは時間的制約で授業中には扱えなかった諸事実を問題の形で提示したものが並ぶ。 ・III の問題群は、理論的側面に重点をおいた問題や、将来の展開に対する動機付けを与える問題などが並ぶ。 ・I の問題群を完全に解決していない答案、および日付欄に出題日が記載されていない答案は、提出物として認めない。 ・提出期限は出題回の次回の講義の終了時を標準とする。ただし、より完成度を高めたい場合に限り、提出期限を延長を認める。その際は、講義終了時の延長申請を通じ、私に一言断る事。 ・各提出物には、内容により S, A, B, C の評価が与えられる。S は3点、A は2点、B は1点、C は0点に換算され、それに一定の操作を加え点数化する。 ・I の問題群を完全に解決している提出物は、B 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・II の問題群を完全に解決している提出物は、A 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・III の問題群を完全に解決している提出物は、S 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・提出期限を過ぎた提出物は、評価が下がる場合がある。 ・提出物は講義開講教室以外では受け取らない。
<p>教員メッセージ ／Message from Lecturer</p>	<p>分からないことがあれば質問すること。また、周囲の友人にも質問してみよ。学生同士の議論の方がむしろ効果的である場合が多い。断じて避けるべきは、わからない箇所を孤独にフリーズすることである。常に手を動かすことが肝要である。</p>
<p>学習・教育目標との対応 ／Learning and Educational Policy</p>	<p>2019年度版学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照</p>
<p>関連科目 ／Related course</p>	<p>解析 A、解析 B、解析 C、線形空間入門</p>

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

Active learning 1-1 ／主体的学修（反転授業，小テスト，振り返り等）	毎回の講義内容に則した演習問題に取り組むことにより積極的な思考を促す。
Active learning 1-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%～50%
Active learning 2-1 ／対話的学修（グループ学習，協働，調査体験等）	演習中にわからないことは，教員や他の学生と議論すること。
Active learning 2-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%～50%
Active learning 3-1 ／深い学修（複数科目の知識の総合化や問題解決型学修等）	演習課題における研究問題（大問Ⅲ）に取り組むことにより，数学における具体例から一般論への昇華を体験する。
Active learning 3-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%未満

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

開講学期 / Course Start	2019年度 / Academic Year 前期 / First
開講曜限 / Class period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業
対象学科 / Department	創造工学科
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年
授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修
授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
授業科目名 / Course Title	物理学 A (Bクラス)
単位数 / Number of Credits	2.0
担当教員名 / Lecturer	亀川 厚則
時間割コード / Registration Code	J2018
連絡先 / Contact	亀川 厚則(X-204室 / 0143-46-5642 / kamegawa@mmm.muroran-it.ac.jp 亀川へのレポートなどの提出先 : X-109 (環境調和材料工学研究センター事務室)) 高野英明(教員室 : Q205室, Tel : 0143-46-5617, E-mail : takano@mmm.muroran-it.ac.jp)
オフィスアワー / Office hours	亀川 厚則(火曜日 16:00-17:00, 金曜日 16:30-17:30 なるべくe-mailでアポイントメントを取って下さい。 時間は柔軟に対応します。) 高野英明(水曜日 16:30-18:00(この他に在室していればいつでも良いです))

授業基本情報 授業概要情報 授業計画詳細情報 授業追加情報

更新日 / Date of renewal	2019/03/08
授業のねらい / Learning Objectives	物理学は理工学分野の基礎となる学問である。その物理学の取り扱い方を最もよく表しているのが、物体の運動を扱う「力学」といえる。物理学Aでは、物体を「質点」とみなし、その運動を微積分を用いて解析する。
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の記述に必要なベクトルや微積分の基本的な公式を理解し、種々の物理量を表すことができる。 2. 物体（質点）の位置、速度、加速度を微積分を用いて互いに導くことができる。（1と2を合わせて30%） 3. 物体に働いている力を図示できる。 4. 質点に働く力および運動の基本法則を理解し、代表的な問題を解くことができる。（3と4を合わせて40%） 5. 仕事とエネルギーの概念を把握し、代表的な問題を解くことができる。 6. 作用反作用の法則を理解し、代表的な問題を解くことができる。（5と6を合わせて30%） 7. 解いた結果から何が言えるかを考える習慣を身につける。
授業計画 / Course Schedule	<p>総授業時間数(実時間) : 22.5時間</p> <p>第1回 : ガイダンス(授業計画、成績評価方法)、物理量と単位(国際単位系)</p> <p>第2回 : 物理量と数学的量的の関係(ベクトル、スカラー)、物理を理解するために必要な数学の確認</p> <p>第3回 : 質点の位置と変位(平面座標と空間座標、座標と位置ベクトル)</p> <p>第4回 : 速さ、速度、加速度(平均変化率と微分、2次導関数、ベクトルの微分)</p> <p>第5回 : 基本的な1次元運動1(等速度運動、等加速度運動、単振動)</p> <p>第6回 : 基本的な1次元運動2(等速円運動、単振動との関係)</p> <p>第7回 : 力と慣性(質量、ニュートンの運動の3法則、重力とニュートンの万有引力の法則)</p> <p>第8回 : 運動方程式の解法例1(放物運動、単振動)</p> <p>第9回 : 運動方程式の解法例2(単振り子と単振動、斜面を滑る質点の運動)</p> <p>第10回 : 仕事と運動エネルギー(運動方程式の位置についての積分、仕事-力と変位の内積-)</p> <p>第11回 : 運動量と力積、運動量保存の法則(運動方程式の時間に関する積分、運動エネルギー)</p> <p>第12回 : 力学的エネルギー保存の法則(保存力とポテンシャル)</p> <p>第13回 : 2体問題、重心とその運動(重心運動と相対運動、換算質量)</p> <p>第14回 : 角運動量と角運動量保存の法則(回転運動での保存量の導入)</p> <p>第15回 : まとめ(「学生による授業評価」を含む)</p> <p>定期試験</p> <p>※授業で学んだ事柄について、その日のうちに自己学習により復習すること。</p>
教科書 / Required Text	小出昭一郎著 「物理学 三訂版」 (裳華房) (ISBN:9784785320744)
参考書等 / Required Materials	<p>基礎的な参考書 : 数学と一緒に学ぶ力学(原康夫著、学術図書出版社)</p> <p>アドバンスな参考書 : 一般力学(山内恭彦著、岩波書店)</p>
成績評価方法 / Grading Guidelines	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 ・ 目標1~6の達成度評価は、定期試験で出題される問題によって行う。 ・ 目標7は努力目標とし、成績評価には含めない。 ・ 不合格者には再試験を1回のみ実施し、60点以上(100点満点)の成績をもって合格とする。
履修上の注意 / Notices	不合格者は次年度以降に、再履修すること。
教員メッセージ / Message from Lecturer	<p>高校の物理 : 質点の力学を数学的に意味を持たせた内容です。高校で学んだ数学から講義が始まります。</p> <p>高校で物理を履修した学生にとっては高校物理の復習と感じるかもしれませんが、数学的に取扱うため気が付いたら「全くわからない」ということがないようにしましょう。</p> <p>高校で物理を履修していない学生にとっても、高校で習った数学的な内容が物理的な意味をもつ「気付き」があるように講義を展開していきたいと思ひます。</p>
学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy	2019年度版学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照
関連科目 / Related course	物理学B、物理学C、工業物理基礎実験、基礎物理実験

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

Active learning 1-1 ／主体的学修（反転授業，小テスト，振り返り等）	本授業では、E-learnigシステムMoodleにより学習教材を提供する。この学習教材の積極的利用や、レポート、小テストあるいは振り返りを授業で実施することにより、主体的な学習態度を身に着ける。
Active learning 1-2 ／上記項目に係るALの度合い	50%超
Active learning 2-1 ／対話的学修（グループ学習，協働，調査体験等）	力の概念の理解のために、グループ学習を実施する。
Active learning 2-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%未満
Active learning 3-1 ／深い学修（複数科目の知識の総合化や問題解決型学修等）	高校で学んだ数学(ベクトルや微積分)に関する知識を，自然を理解するために活用していきます。知識を知恵として活用する力を身に着けます。
Active learning 3-2 ／上記項目に係るALの度合い	50%超

7 その他全般的事項

<理工学部 創造工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 室蘭工業大学理工学人材育成本部の下にFD・AL部門を有する教育推進支援センターを設置</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） FD・AL部門会議は年10回程度開催予定</p> <p>c 委員会の審議事項等 FDの企画、立案及び実施に関すること。アクティブラーニングの推進に関すること。 その他授業科目の教育内容及び方法等の向上に関すること。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 教育ワークショップ（FDワークショップ）、FD講演会、教員相互の授業参観 等</p> <p>b 実施方法 ワークショップ形式、講演会、授業参観等の本学教職員を対象としたFDの実施</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 平成30年度の実施状況は以下のとおりであり、令和2年度も継続的にFDを実施する予定である。 ・FDワークショップ（9/18-19実施_参加者24名（他大学参加者1名を含む）） ・FD講演会（7/20実施_参加者31名、1/29実施_参加者26名） ・教員相互の授業参観（6月実施_参加者のべ131名、11月実施_参加者のべ146名）</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 各FD終了後にアンケートを実施。参加者の満足度や要望等を分析し、次回以降の同活動の改善に役立てている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 学生による授業評価アンケートを每期最終週に紙面にて実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 大学Webサイト上で公開予定</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>設置の趣旨・目的の達成に向けて、計画どおり順調に進捗している。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>・未定（検討中）</p> <p>b 公表方法</p> <p>・大学ホームページ上に公開予定</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>・令和元年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援機構・学位授与機構）の評価を受審予定</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）</p> <p>a ホームページへの公表予定の有無 （ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年7月1日（予定） ）</p> <p>b 公表無の場合の特段の理由 （ ）</p>

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人室蘭工業大学

(2) 大学名

室蘭工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(クガ ヨシカズ) 空閑 良壽 (平成27年4月)		
学科長等	(ヨシダ マサノリ) 吉田 雅典 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
理工学部 システム理化学科 学士（理工学）	理学関係 工学関係	4年	235人	第3年次 15人	970人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	235人 (-) [-]	-人	人	人	人	人	人	人	人	人	1.05倍	-	
志願者数	591 (-) [27]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
受験者数	546 (-) [27]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
合格者数	299 (-) [27]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
B 入学者数	247 (-) [10]	-	()	()	()	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.05												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ））書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	247 [10] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	247 [10] (-)		[] ()		[] ()		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	247 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{247} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<理工学部 システム理化学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1								兼8
	英語リーディング演習A	1後	1								兼4
	英語リーディング演習B	2前	1								兼4
	英語総合演習	2後	1								兼8
	英語コミュニケーションⅠ	2前・後	1								兼4
	英語コミュニケーションⅡ	3前	1								兼2
	TOEIC英語演習Ⅰ	1後	1								兼4
	TOEIC英語演習Ⅱ	3前	2								兼4
	ドイツ語	1前・後	1								兼1
	中国語	1前・後	1								兼1
小計(10科目)	—	8	3							兼10	
地域連携科目	地域社会概論	1前	1			1					兼3
	胆振学入門	1前	1								兼1
	北海道産業論A	3前	1								兼1
	北海道産業論B	3前	1		1						兼1
	北海道産業論C	3前	1		1						兼1
	インター・テクノロジーA	3前	1			1					兼1
	インター・テクノロジーB	4前	1			1					兼1
小計(7科目)	—	1	6		2	2				兼7	
一般教養教育	平和学	1前	1								兼1
	哲学入門	1前	1								兼1
	こころの科学	1前	1								兼1
	経済のしくみ	1前	1								兼1
	日本の憲法	1後	2								兼1
	現代社会論	1後	2								兼1
	現代民主主義論	1後	2								兼1
	現代心理学	1後	2								兼1
	運動の科学	1後	2								兼1
	経済事情	1後	2								兼1
	医の科学	1後	2								兼1
	メンタルヘルス論	1後	2								兼1
	青少年と文化	1後	2								兼2
	異文化交流A	1後	2								兼1
	ドイツの文化	1後・2前	1								兼1
	中国の文化	1後・2前	1								兼1
	環境経済論	2前	2								兼1
	基本的人権論	2前	2								兼1
	地方自治論	2前	2								兼1
	感性の科学	2前	2								兼1
	国際文化論	2前	2								兼1
	異文化交流B	2前	2								兼1
	地域再生システム論	1前	2								兼3
	キャリアデザイン	2後	2		1						
	スポーツ実習a	1前	1								兼1
	スポーツ実習b	1前	1								兼1
	スポーツ実習c	1後	1								兼1
	スポーツ実習d	1後	1								兼1
	臨海実習	1-2-3-4期	1								兼1
	海外語学研修	1-2-3-4期	2								兼3
	海外研修	1-2-3-4期	1								兼3
	社会体験実習	1-2-3-4期	1						1		兼2
	地域インターンシップ	3前・後	2		3						兼5
	短期インターンシップ	3前・後	2		3						兼5
	長期インターンシップ	3前・後	3		3						兼5
	連携教養科目	1-2-3-4期									
小計(36科目)	—	58	4		1					兼21	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
外国語科目	フレッシュマン英語演習	1前	1								兼8
	英語リーディング演習A	1後	1								兼4
	英語リーディング演習B	2前	1								兼4
	英語総合演習	2後	1								兼8
	英語コミュニケーションⅠ	2前・後	1								兼4
	英語コミュニケーションⅡ	3前	1								兼2
	TOEIC英語演習Ⅰ	1後	1								兼4
	TOEIC英語演習Ⅱ	3前	2								兼4
	ドイツ語	1前・後	1								兼1
	中国語	1前・後	1								兼1
小計(10科目)	—	8	3							兼10	
地域連携科目	地域社会概論	1前	1			1					兼3
	胆振学入門	1前	1								兼1
	北海道産業論A	3前	1								兼1
	北海道産業論B	3前	1		1						兼1
	北海道産業論C	3前	1		1						兼1
	インター・テクノロジーA	3前	1			1					兼1
	インター・テクノロジーB	4前	1			1					兼1
小計(7科目)	—	1	6		2	2				兼7	
一般教養教育	平和学	1前	1								兼1
	哲学入門	1前	1								兼1
	こころの科学	1前	1								兼1
	経済のしくみ	1前	1								兼1
	日本の憲法	1後	2								兼1
	現代社会論	1後	2								兼1
	現代民主主義論	1後	2								兼1
	現代心理学	1後	2								兼1
	運動の科学	1後	2								兼1
	経済事情	1後	2								兼1
	医の科学	1後	2								兼1
	メンタルヘルス論	1後	2								兼1
	青少年と文化	1後	2								兼2
	異文化交流A	1後	2								兼1
	ドイツの文化	1後・2前	1								兼1
	中国の文化	1後・2前	1								兼1
	環境経済論	2前	2								兼1
	基本的人権論	2前	2								兼1
	地方自治論	2前	2								兼1
	感性の科学	2前	2								兼1
	国際文化論	2前	2								兼1
	異文化交流B	2前	2								兼1
	地域再生システム論	1前	2								兼3
	キャリアデザイン	2後	2		1						兼3
	スポーツ実習a	1前	1								兼1
	スポーツ実習b	1前	1								兼1
	スポーツ実習c	1後	1								兼1
	スポーツ実習d	1後	1								兼1
	臨海実習	1-2-3-4期	1								兼4
	海外語学研修	1-2-3-4期	2								兼3
	海外研修	1-2-3-4期	1								兼3
	社会体験実習	1-2-3-4期	1						1		兼2
	地域インターンシップ	3前・後	2		3						兼5
	短期インターンシップ	3前・後	2		3						兼5
	長期インターンシップ	3前・後	3		3						兼5
	連携教養科目	1-2-3-4期									
小計(36科目)	—	58	4		1					兼26	

<p>卒業要件 (システム理化学科 物理物質システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目46単位、選択科目6単位以上、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>
<p>卒業要件 (システム理化学科 化学生物システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目37単位、選択科目15単位以上(選択科目Aから11単位以上、選択科目Bから2単位以上)、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>
<p>卒業要件 (システム理化学科 数理情報システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目27単位、選択科目25単位以上、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>

<p>卒業要件 (システム理化学科 物理物質システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目46単位、選択科目6単位以上、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>
<p>卒業要件 (システム理化学科 化学生物システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目37単位、選択科目15単位以上(選択科目Aから11単位以上、選択科目Bから2単位以上)、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>
<p>卒業要件 (システム理化学科 数理情報システムコース)</p> <p>1. 本表の授業科目のうち、必修科目27単位、選択科目25単位以上、合計52単位以上修得すること。</p> <p>2. 一般教養教育24単位、理工学部共通科目26単位、システム理化学科共通科目27単位以上を含め、合計129単位以上修得すること。</p>

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ **本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。**
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために**未開講**となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教育内容の充実の理由により、「スポーツ実習 a」の兼任・兼担の配置を「1」から「3」に変更。
- ・教育内容の充実の理由により、「臨海実習」の兼任・兼担の配置を「1」から「4」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「微分積分 A」の専任教員等の配置を「准教授 2」から「准教授 1」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「物理学 A」の専任教員等の配置を「教授 4、准教授 3」から「教授 2、准教授 1」及び兼任・兼担の配置を「5」から「0」に変更。
- ・担当教員の見直しの理由により、「フレッシュマンセミナー」の兼任・兼担の配置を「4」から「0」に変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度 (平成 29 年度開設であれば平成 28 年度) の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
9 科目	19 科目	0 科目	28 科目	9 科目 [0]	19 科目 [0]	0 科目 [0]	28 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1 科目減の場合: Δ 1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{28} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考						
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計							
	校 舎 敷 地	121,138㎡	0㎡	0㎡	121,138㎡							
	運 動 場 用 地	25,279㎡	0㎡	0㎡	25,279㎡							
	小 計	146,417㎡	0㎡	0㎡	146,417㎡							
	そ の 他	67,851㎡	0㎡	0㎡	67,851㎡							
	合 計	214,268㎡	0㎡	0㎡	214,268㎡							
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計							
		70,022㎡	0㎡	0㎡	70,022㎡	教育・研究3号館渡り廊 下69.86㎡整備予定 (元)						
		(70,092㎡) (70,022㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(70,092㎡) (70,022㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室 3 4 室 4 5 室	演 習 室 2 5 室 1 2 室	実 験 実 習 室 5 5 室 5 9 室	情 報 処 理 学 習 施 設 6 室 (補助職員 5人)	語 学 学 習 施 設 0 室 (補助職員 0人)		教育・研究3号館の改修 に伴う転用等及び教員の 入替等による用途変更 (元)					
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員2名辞任のため (元)						
	理工学部 システム理化学科			133 135 室								
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体 図書・設備等更新のため (元)				
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕									
			理工学部	6,086 [2,184] 6,072 [2,182] (6,086 [2,184]) (6,072 [2,182])					4,005 [4,001] 4,535 [3,971] (4,005 [4,001]) (4,535 [3,971])	4,112 4,462 (3,954) (4,032)	290 276 (0) (-276)	1 (1)
			計	6,086 [2,184] 6,072 [2,182] (6,086 [2,184]) (6,072 [2,182])					4,005 [4,001] 4,535 [3,971] (4,005 [4,001]) (4,535 [3,971])	4,112 4,462 (3,954) (4,032)	290 276 (0) (-276)	1 (1)
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体					
	4,141㎡		374		323,472							
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要									
	2,856㎡		テニスコート、弓道場、アーチェリー場									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度				
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円				
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円					
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		千円	千円	千円	千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要												

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	室 蘭 工 業 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
工学部	4	-	3年次 40	1880	-	1.06	-	昭和24	-	
建築社会基盤系学科	4	-	3年次 10	350	学士 (工学)	1.09	-	平成21	北海道室蘭市水元町27番1号	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△110
機械航空創造系学科	4	-	3年次 10	500	学士 (工学)	1.06	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△160
応用理化学系学科	4	-	3年次 10	410	学士 (工学)	1.05	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△130
情報電子工学系学科	4	-	3年次 10	620	学士 (工学)	1.04	-	平成21	同上	平成31年4月学生募集停止 (3年次編入学生を除く) 学年進行により定員△200
理工学部	4	600	-	600	-	1.05	平成31	平成31	-	
創造工学科	4	365	-	365	学士 (工学)	1.06	平成31	平成31	北海道室蘭市水元町27番1号	
システム理化学科	4	235	-	235	学士 (理工学)	1.05	平成31	平成31	同上	
工学研究科(博士前期課程)	2	224	-	448	-	1.14	-	昭和40	-	
環境創生工学系専攻	2	73	-	146	修士 (工学)	1.29	-	平成26	北海道室蘭市水元町27番1号	
生産システム工学系専攻	2	84	-	168	修士 (工学)	1.11	-	平成26	同上	
情報電子工学系専攻	2	67	-	134	修士 (工学)	1.03	-	平成26	同上	
工学研究科(博士後期課程)	3	15	-	45	-	1.37	-	平成2	-	
工学専攻	3	15	-	45	博士 (工学)	1.37	-	平成26	北海道室蘭市水元町27番1号	
大学全体	-	839	40	2973	-	1.15	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・高野	英明専任教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・吉田	雅典専任教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・矢野	隆治専任教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・葛谷	俊博専任准教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・内免	大輔専任准教授の担当授業科目から「微分積分A」を削除。
・清水	一 道兼担教授の担当科目見直しのため、削除。
・飯島	徹兼担教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・亀川	厚則兼担教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・前田	潤兼担教授の担当授業科目に「地域社会概論」を追加。
・真境名	達哉兼担教授の担当科目見直しのため、削除。
・山田	深兼担教授の担当科目見直しのため、削除。
・廣田	光智兼担教授の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・加野	裕兼担教授の担当科目見直しのため、削除。
・田所	重紀兼担教授昇任のため、兼担教授に変更。
・山路奈保子	兼担教授昇任のため、兼担教授に変更。
・阿知良洋平	兼担講師の担当授業科目から「地域社会概論」を削除。
・松元	和幸兼担講師退職のため、兼任講師として就任。
・田湯	善章兼担助教の担当授業科目から「物理学A」を削除。
・湊	亮二郎兼担助教の担当科目見直しのため、削除。
・大口	喜久男兼任講師を配置し、授業科目「スポーツ実習a」を担当。
・成田	正則兼任講師を配置し、授業科目「スポーツ実習a」を担当。
・本村	泰三兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。
・長里	千香子兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。
・市原	健介兼任講師を配置し、授業科目「臨海実習」を担当。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
27 名	14 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
23	28	1	13	65	23	28	1	13	65
(23)	(28)	(1)	(13)	(65)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
23	28	1	13	65	23	28	1	13	65
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{65}{65} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>養成する人材像とディプロマ・ポリシーの「強靱性」について、強くてしなやかという通常の意味とは異なる意味で用いている。学生や社会一般に誤解を与えないよう、本学の考える「強靱性」の内容について、学生募集時や広報活動の際に十分周知すること。</p>	<p>「強靱性」とは、技術革新や社会環境の変化が速い産業界において、自らの能力を発揮できる強さ・しなやかさを持つことを示しており、変化が速い産業界において能力を発揮するためには、ひとつの専門にとらわれずに幅広い基礎知識と情報技術、複数の専門知識を修得することで、多様な困難に対して広い視野で対応できるようになり、このような人材を「強さ・しなやかさ」を持った人材として捉えている。</p> <p>このことを学生募集、広報活動の際に、学生に誤解のないよう十分説明を行うとともに、理工学部紹介用資料を作成し、設置の趣旨や必要性、理工学部の教育の特徴などと併せて、本学が養成する人材像等について、より理解が深まるよう一部表現を以下のとおり改め、配付した。</p> <p>養成する人材像 (強靱性と俯瞰力) 旧)自身の幅広い基礎知識と基本の情報技術を身に付け、多様な困難を俯瞰的に捉えて対応できる科学技術者 新)幅広い基礎知識と基本の情報技術を身に付けて実社会に活かす能力を修得し、多様な困難に、広い視野で柔軟に対応できる科学技術者</p> <p>また、学生や社会一般に向けて、本学HPにおいても上記と同様に養成する人材像、ディプロマ・ポリシーを掲載し、周知している。</p>	<p>履行済</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>シラバスにアクティブラーニングについて記述する欄を設けているが、例えば予習・復習など、アクティブラーニングではない内容が記述されている。シラバスにおける記述として適切ではないため、アクティブラーニングを行わない科目における記述を削除すること。</p>	<p>シラバスに記述するアクティブラーニングに関する項目を見直し、予習復習に係る内容は記述しないこととした。また、当該変更については、「シラバス記入上の注意・シラバス記入例」に反映し、教員に周知した。さらに、シラバス公開前にシラバス担当ワーキンググループによるシラバス点検を2回行い、「シラバス記入上の注意・シラバス記入例」に沿った記述になっていることを確認後、シラバスを公開した。</p> <p>参考資料：シラバス抜粋参照</p>	<p>履行済</p>

<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>「情報セキュリティ入門」については、情報セキュリティの基礎となる考え方を理解するとともに、インターネットやパソコンの安全な利用方法を習得させるとしているが、「安全な利用方法」の習得は利用者側の観点に立った内容（情報リテラシー）となっている。「情報セキュリティ」という名称の科目であれば、OS、ソフトウェア及びネットワークなどのセキュアな構成技術やマルウェア対策などの内容を加えることが望ましい。</p>	<p>助言事項</p>	<p>当該科目で取り扱う内容を見直し、以下の内容について授業を行っている。 1_スマートフォンとその脅威、権利関係法規、個人情報、マルウェア対策 2_電子的なコミュニケーションの基礎、電子メールのセキュリティ 3_インターネットサービスとその脅威、クラウドセキュリティ 4_情報管理方法、リスクアセスメントとリスク対応 5_情報セキュリティと情報機器の管理技術 6_セキュリティ技術その1：Wifi、暗号化、IPプロトコルの仕組みと暗号化、Wifi調査 7_セキュリティ技術その2：セキュアなシステム構築（OS、ソフトウェア、ネットワーク）、電子署名、認証基盤</p>	<p>履行済</p>	
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>学科名称で使われている「システム」と、コース名称で使われている「システム」について、異なる意味で用いられているため、学生に誤解を与えないよう、学科名称、コース名称の「システム」のそれぞれの意味について、学生募集時に十分周知することが望ましい。</p>	<p>助言事項</p>	<p>学科名称、コース名称で使っている「システム」のそれぞれの意味について、より誤解がないように以下のおり理工学部紹介に係るHPに概要を掲載し、学生に周知を行った。</p> <p>○システム理化学科概要 システム理化学科の教育コースは、基礎科学に近く、様々な産業の基礎となる分野を扱っています。大学でどのような専門知識を身につけて、将来、社会に貢献していきたいのかを見極められるように、コース分属前の学科共通科目において、システム理化学科の全ての学生が、各コースのベースとなる自然科学（理化学）と情報科目（システム）を広く学べるようにしています。</p> <p>○物理物質システムコース 自然現象を解明する、身近な資源・資産を物理物質システムとして捉え、その本質を探求するための科学の一分野である物理学と、本質に関するデータを抽出し活用するための手段を与える情報学（情報の科学と工学）を融合させた教育研究を行います。</p> <p>○化学生物システムコース 自然現象を解明する、特に地域における身近な資源・資産を化学生物システムとして捉え、その本質を探求するための科学の一分野である化学および生物学と、本質に関するデータを抽出し活用するための手段を与える情報学（情報の科学と工学）を融合させた教育研究を行います。</p>	<p>履行済</p>	

		<p>○数理情報システムコース 自然現象の解明から地域における身近な問題を数理情報システムの観点から捉え、その本質から探究する科学分野を中心に学びます。特に論理基盤を与える数学を基礎に、広範囲な情報学を学び、情報に関わる科学と工学を融合させた教育研究を行います。</p> <p>また、各コースの紹介ページにおいて、コースの概要説明に加え、コースの教育プログラムの具体や想定する就職状況の具体なども併せて掲載し、学科・コースの内容等に誤解のないよう周知している。</p>	
--	--	---	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

開講学期 / Course Start	2019年度 / Academic Year 前期 / First
開講曜限 / Class period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業
対象学科 / Department	システム理化学科
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年
授業科目区分 / Category	教育課程 システム理化学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修
授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
授業科目名 / Course Title	線形代数A (Gクラス)
単位数 / Number of Credits	2.0
担当教員名 / Lecturer	森田英章
時間割コード / Registration Code	J2051
連絡先 / Contact	森田英章(部屋番号 Q410 電話番号 5810 morita@mmm.muroran-it.ac.jp.)
オフィスアワー / Office hours	森田英章(水曜日 15:30 ~ 16:30)

更新日 / Date of renewal	2019/02/24
授業のねらい / Learning Objectives	工学を学ぶ際の基本言語の一つである線形代数、特にその計算に関する側面を修得することを主な目的とする。それ以外に三つある。 下に教科書を指定したが、授業の進め方はそれとほぼ独立した形でおこなう。従って、毎回の演習では各自のノートが頼りとなる。自分でとった情報を自分で活用することに慣れてほしい。二つ目は、ノートを素早くとる習慣を身につけることである。大学の講義での板書はおおむね早い。そのなかで、使えるノートを的確に作製するための自らのワザを形成してもらいたい。最後は、文献を自力で読み進める事に慣れる事である。各自、教科書の授業内容に該当する部分は常に読んでおいてもらいたい。授業を通じてだいが教科書がよみやすくなっているはずである。講義では取り上げる事ができなかった事柄や、演習問題のヒント（解答）が載っていることもある。この授業が終わる頃には、教科書の該当箇所を読み終えていてもらいたい。
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ul style="list-style-type: none"> ・行列の各種演算ができる。 ・行列の基本変形を確実に行うことができる。 ・行列の基本変形の応用として連立1次方程式の解を求めることができる。 ・掃き出し法や余因子法を用いて逆行列を求めることができる。 ・掃き出し法や余因子展開を用いて行列式の計算をすることができる。 ・空間ベクトルに関する計算ができる。
授業計画 / Course Schedule	<p>総授業時間数（実時間） 22.5時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、行列用語の基礎知識、および和とスカラー倍 2、空間のベクトルとその基本操作 3、行列の積 4、逆行列～掃き出し法 5、連立一次方程式Ⅰ～唯一解 6、連立一次方程式Ⅱ～解の自由度 7、連立一次方程式Ⅱ～行列の階数と解の自由度 8、中間試験 9、行列式の定義 10、行列式の計算～余因子展開Ⅰ 11、行列式の計算～余因子展開Ⅱ 12、逆行列再説～余因子法 13、まとめ <p>各回には各自の理解を深めるための演習がつく。 提出期限は出題回の次回の講義終了時を標準とする。 この作業を通じて自己学習の時間を確保していただきたい。</p> <p>実際の内容に入る前に、一回ガイダンスを行う。 そこで、講義・演習、試験およびその採点、 単位取得に関する注意点、以上3点についての概要を述べる。 また途中、中間試験、およびその返却・解説が共に一回入る予定である。</p>
教科書 / Required Text	線形代数（学術図書出版社）(ISBN:9784780604672)
教科書・参考書に関する備考	<p>[教科書] 線形代数（学術図書出版社） 著者：桂田英典他</p> <p>[参考書] 齋藤正彦著「線形代数入門」東京大学出版会 基礎数学1、定価1,995円（税込）図書館に10冊所蔵あり</p> <p>[備考]</p>
成績評価方法 / Grading Guidelines	<p>成績評価には中間試験・定期試験・演習を用いる。 中間試験20%、定期試験50%、演習点30%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>各到達度目標は、これら中間試験・定期試験・演習を通じて評価される。 ただし、受講者数によっては中間試験を行わない場合がある。 その場合は定期試験60%、演習40%で評価する。 再試験等は一切行わない。受講者は、自己のスケジュール管理と体調管理に万全を期すこと。</p> <p>合格のための必要条件は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1： 中間と定期の両方の試験を受験すること。 2： 演習を10回ほど行うが、そのうち8回以上提出すること。 3： 履修者名簿に指名が掲載されていること。 <p>以上の3点である。</p>

	<p>特に必要条件 3 については、 受講者自身の責任で確実に登録を行い、事務的な不備を自ら排すること。 この点に関して教員からの救済は一切期待できない。</p> <p>また、不合格者は再履修すること。</p>
<p>履修上の注意 ／Notices</p>	<p>この講義ではほぼ毎回演習がつく。話を聞いて理解することと、自分で実際にそれを実行することの間には壁がある。この壁を乗り越えることが、演習の主な目的である。それ以外に、講義では拾いきれない細かい話題や、後に出てくる話題の動機付けも演習の中で扱われる。</p> <p>以下、演習についての注意点を挙げておく：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題は大きくして I, II, III の三種類の問題群が用意されている。それを各自解答を作成して提出する。I, II, III それぞれいくつかの小問で構成されている。 ・I の問題群は、講義中に取り扱われた例題に準じた問題である。ノートを見ながらやれば、確実に解答できる。 ・II の問題群は、I の問題群に計算的側面で若干の負荷をかけたもの、および話の流れの都合、あるいは時間的制約で授業中には扱えなかった諸事実を問題の形で提示したものが並ぶ。 ・III の問題群は、理論的側面に重点をおいた問題や、将来の展開に対する動機付けを与える問題などが並ぶ。 ・I の問題群を完全に解決していない答案、および日付欄に出題日が記載されていない答案は、提出物として認めない。 ・提出期限は出題回の次回の講義の終了時を標準とする。ただし、より完成度を高めたい場合に限り、提出期限を延長を認める。その際は、講義終了時の延長申請を通じ、私に一言断る事。 ・各提出物には、内容により S, A, B, C の評価が与えられる。S は3点、A は2点、B は1点、C は0点に換算され、それに一定の操作を加えて点数化する。 ・I の問題群を完全に解決している提出物は、B 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・II の問題群を完全に解決している提出物は、A 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・III の問題群を完全に解決している提出物は、S 評価を得る資格を有する。ただし、その内容によっては評価が下がる場合がある。 ・提出期限を過ぎた提出物は、評価が下がる場合がある。 ・提出物は講義開講教室以外では受け取らない。
<p>教員メッセージ ／Message from Lecturer</p>	<p>分からないことがあれば質問すること。また、周囲の友人にも質問してみよ。学生同士の議論の方がむしろ効果的である場合が多い。断じて避けるべきは、わからない箇所を孤独にフリーズすることである。常に手を動かすことが肝要である。</p>
<p>学習・教育目標との対応 ／Learning and Educational Policy</p>	<p>2019年度版学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照</p>
<p>関連科目 ／Related course</p>	<p>解析 A、解析 B、解析 C、線形空間入門</p>

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

Active learning 1-1 ／主体的学修（反転授業，小テスト，振り返り等）	毎回の講義内容に則した演習問題に取り組むことにより積極的な思考を促す。
Active learning 1-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%～50%
Active learning 2-1 ／対話的学修（グループ学習，協働，調査体験等）	演習中にわからないことは、教員や他の学生と議論すること。
Active learning 2-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%～50%
Active learning 3-1 ／深い学修（複数科目の知識の総合化や問題解決型学修等）	演習課題における研究問題（大問Ⅲ）に取り組むことにより、数学における具体例から一般論への昇華を体験する。
Active learning 3-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%未満

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

開講学期 / Course Start	2019年度 / Academic Year 前期 / First
開講曜限 / Class period	月 / Mon 5, 月 / Mon 6
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業
対象学科 / Department	システム理化学科
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年
授業科目区分 / Category	教育課程 システム理化学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修
授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
授業科目名 / Course Title	物理学 A (Gクラス)
単位数 / Number of Credits	2.0
担当教員名 / Lecturer	岸本弘立
時間割コード / Registration Code	J2063
連絡先 / Contact	岸本弘立(K-511 / 0143-46-5615 / hkishi@mmm.muroran-it.ac.jp)
オフィスアワー / Office hours	岸本弘立(月曜日 12:00~13:00)

授業基本情報 授業概要情報 授業計画詳細情報 授業追加情報

更新日 / Date of renewal	2019/03/16
授業のねらい / Learning Objectives	物理学は理工学分野の基礎となる学問である。その物理学の取り扱い方を最もよく表しているのが、物体の運動を扱う「力学」といえる。物理学Aでは、物体を「質点」とみなし、その運動を微積分を用いて解析する。
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の記述に必要なベクトルや微積分の基本的な公式を理解し、種々の物理量を表すことができる。 2. 物体（質点）の位置、速度、加速度を微積分を用いて互いに導くことができる。（1と2を合わせて30%） 3. 物体に働いている力を図示できる。 4. 質点に働く力および運動の基本法則を理解し、代表的な問題を解くことができる。（3と4を合わせて40%） 5. 仕事とエネルギーの概念を把握し、代表的な問題を解くことができる。 6. 作用反作用の法則を理解し、代表的な問題を解くことができる。（5と6を合わせて30%） 7. 解いた結果から何が言えるかを考える習慣を身につける。
授業計画 / Course Schedule	<p>総授業時間数(実時間) 22.5時間</p> <p>第1回：ガイダンス(授業計画、成績評価方法)、物理量と単位(国際単位系) 第2回：物理量と数学的量の関係(ベクトル、スカラー)、物理を理解するために必要な数学の確認 第3回：質点の位置と変位(平面座標と空間座標、座標と位置ベクトル) 第4回：速さ、速度、加速度(平均変化率と微分、2次導関数、ベクトルの微分) 第5回：基本的な1次元運動1(等速度運動、等加速度運動、単振動) 第6回：基本的な1次元運動2(等速円運動、単振動との関係) 第7回：力と慣性(質量、ニュートンの運動の3法則、重力とニュートンの万有引力の法則) 第8回：運動方程式の解法例1(放物運動、単振動) 第9回：運動方程式の解法例2(単振り子と単振動、斜面を滑る質点の運動) 第10回：仕事と運動エネルギー(運動方程式の位置についての積分、仕事-力と変位の内積-) 第11回：運動量と力積、運動量保存の法則(運動方程式の時間に関する積分、運動エネルギー) 第12回：力学的エネルギー保存の法則(保存力とポテンシャル) 第13回：2体問題、重心とその運動(重心運動と相対運動、換算質量) 第14回：角運動量と角運動量保存の法則(回転運動での保存量の導入) 第15回：まとめ(「学生による授業評価」を含む) 定期試験</p> <p>授業で学んだ事柄について、その日のうちに自己学習により復習すること</p>
教科書 / Required Text	物理学 3訂版(小出昭一郎、裳華房) (ISBN:9784785320744)
参考書等 / Required Materials	<p>基礎的な参考書：数学と一緒に学ぶ力学(原康夫著、学術図書出版社)</p> <p>アドバンスな参考書：一般力学(山内恭彦著、岩波書店)</p>
成績評価方法 / Grading Guidelines	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 ・目標1～6の達成度評価は、定期試験で出題される問題によって行う。 ・目標7は努力目標とし、成績評価には含めない。 ・不合格者には再試験を1回のみ実施し、60点以上（100点満点）の成績をもって合格とする。
履修上の注意 / Notices	<p>不合格者は次年度以降に、再履修すること。</p> <p>本授業では、E-learnigシステムMoodleで教材を提供する。</p>
学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy	2019年度版学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照
関連科目 / Related course	物理学B、物理学C、工業物理基礎実験、基礎物理実験

授業情報 / Course information

授業基本情報

授業概要情報

授業計画詳細情報

授業追加情報

Active learning 1-1 ／主体的学修（反転授業，小テスト，振り返り等）	
Active learning 1-2 ／上記項目に係るALの度合い	該当なし
Active learning 2-1 ／対話的学修（グループ学習，協働，調査体験等）	力の概念の理解のために、グループ学習を実施する。
Active learning 2-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%未満
Active learning 3-1 ／深い学修（複数科目の知識の総合化や問題解決型学修等）	本授業で扱う数学は高校数学(数学I、II、III、A、B、C)を基礎としており、物理現象(物体の運動)を数学を用いて理解する総合的な学習を行う。
Active learning 3-2 ／上記項目に係るALの度合い	15%未満

7 その他全般的事項

<理工学部 システム理化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 室蘭工業大学理工学人材育成本部の下にFD・AL部門を有する教育推進支援センターを設置</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） FD・AL部門会議は年10回程度開催予定</p> <p>c 委員会の審議事項等 FDの企画、立案及び実施に関すること。アクティブラーニングの推進に関すること。 その他授業科目の教育内容及び方法等の向上に関すること。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 教育ワークショップ（FDワークショップ）、FD講演会、教員相互の授業参観 等</p> <p>b 実施方法 ワークショップ形式、講演会、授業参観等の本学教職員を対象としたFDの実施</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 平成30年度の実施状況は以下のとおりであり、令和2年度も継続的にFDを実施する予定である。 ・FDワークショップ（9/18-19実施_参加者24名（他大学参加者1名を含む）） ・FD講演会（7/20実施_参加者31名、1/29実施_参加者26名） ・教員相互の授業参観（6月実施_参加者のべ131名、11月実施_参加者のべ146名）</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 各FD終了後にアンケートを実施。参加者の満足度や要望等を分析し、次回以降の同活動の改善に役立てている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 学生による授業評価アンケートを每期最終週に紙面にて実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 大学Webサイト上で公開予定</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>設置の趣旨・目的の達成に向けて、計画どおり順調に進捗している。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>・未定（検討中）</p> <p>b 公表方法</p> <p>・大学ホームページ上に公開予定</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>・令和元年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援機構・学位授与機構）の評価を受審予定</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）</p> <p>a ホームページへの公表予定の有無 （ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年7月1日（予定） ）</p> <p>b 公表無の場合の特段の理由 （ ）</p>

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。